

「仏」をテーマとする舞踊の身体表現特性

—静岡県森町天宮神社および小國神社の

「色香」を事例とする動作分析的研究—

お茶の水女子大学大学院 遠藤綾乃

1. 目的と対象

これまで日本国内に現存する7つの「仏舞」を対象として、動作分析的手法によって動作特性と舞踊に内在する表現意図との相互関連性を報告してきた。

本研究では、さらに研究対象を“「仏」をテーマとする舞踊”にまでひろげ、これまでの研究方法の妥当性を検証する。分析対象は、静岡県周智郡森町の天宮神社および小國神社に伝承される舞楽の一演目「色香」である。神仏習合の影響が残る両神社の舞楽芸能の中でも「色香」は、舞人が「仏」に扮して舞う点が「仏舞」と同様であり、「仏舞」に適用してきた動作分析法を用いることによって身体表現特性に関する有効な結果の導出が期待できる。両神社の「色香」を対象に、動作分析によって身体表現を明示化・客観化し、その結果から内在する表現意図を探るとともに、これまで試みてきた分析法の有効性を検討する。

2. 方法

2000年4月の上演記録をもとに、動作フレーズ・ポーズの形態と全体構成、身体部位別運動要素の比率、身体の動作軌跡、手の形態、隊形移動の各観点から「色香」の身体動作を分析し、内在する表現意図を検討した。

3. 結果および考察

(1) 祭礼および「色香」の概略

静岡県周智郡森町の天宮神社と小國神社において毎年4月の例大祭で「十二段舞楽」が上演される。「色香」は12演目中2番目の演目で、3部構成からなる約30分間の舞踊である。舞人は2人で、その外観は、仏の仮面をつけ、小袖・袴を着て手に2本のバチを持ち、日光と月光とを表す円板をそれぞれ肩から背中に掛ける。

(2) 舞踊動作の分析結果

I. 動作フレーズ・ポーズと全体構成

主要な動作フレーズと静止ポーズとを抽出した結果、「仏舞」には皆無であった腰をひねる動作や跳躍などが認められた。また、人差し指を立てるかバチを握るかした片手を眼前に据え、徐々に上半身を後ろに反らせて上方を仰ぎ見る特徴的なフレーズが抽出された。全体構成においては、特定のフレーズ・ポーズを組み合わせた反復動作を左右交互に行う規則性が見出された。

II. 身体部位ごとの運動要素の比率

体幹・上肢・下肢の運動要素の比率を分析した

結果、体幹の前屈・側屈・側方回旋、下肢の屈曲といった運動の比率が「仏舞」と比べて高かった。一方、上肢は定位置に固定される傾向にあった。

III. 身体の動作軌跡

舞人が一連のフレーズで描く動作軌跡を分析した結果、身体の垂直軸に対して横方向に動く軌跡と縦方向に動く軌跡とに大別された。また大部分のフレーズは、収束時に再び動作の起点の位置に戻る。この特性に該当しなかったのは、Iであげた上方を仰ぎ見るフレーズのみであった。さらに動作の方向性として、開始時に左へ動き出す頻度が高いことが明らかになった。

IV. 手の形態

上肢を特定の形態に固定する傾向が見出されたことから、それに伴う手の形態を分析した結果、出現率が高かったのは、両手のひらを離したまま指先をつけて親指と他の指とで空洞を形づくるポーズと、両手をそれぞれ握り締め人差し指を立てるポーズとの2つであった。

V. 隊形移動

隊形変化を分析した結果、終始2人の舞人が舞台の中央を中心として点対称に移動することが判明した。第1～2部では一直線上を反復する隊形移動が中心で、第3部ではひし形の四辺に沿って一周する隊形移動が中心である。

(3) 表現意図の検討

以上の分析によって得られた動作特性から、次のような表現意図が解釈される。

- ①対称性の重視／ I・III・Vにおいて、左右・上下・点対称といった対称の関係が頻繁に見出された。これにより、「色香」は対称性を重視していると解釈される。なお、この対称性は、舞人の装飾品である円板の日光と月光の関係にも見出せる。
- ②循環性の重視／ III・Vにおいて、一部を除き、起点と終点の位置が一致する循環的な動作を繰り返すことが判明した。これにより、「色香」は対称性と同時に循環性を重視する舞踊と解釈される。
- ③性的結合の象徴／ IVで見出した2つの手のポーズは、女性性器と男性性器の直接的表現と考えられる。これは、①で指摘した対称的表現であるのみならず、性的結合の象徴表現と解釈され、子孫繁栄、五穀豊穡といった祈願を含蓄していると考えられる。IIで指摘したように上肢を固定することによって、このような特定の意味を有する手のポーズを長時間露呈する演出効果を伴う。
- ④天上志向／ Iで抽出した片手を眼前に据えて上方を仰ぎ見るフレーズは、IIIで明示したように始点に戻る他のフレーズとは異なり、上方への軌跡を描いたまま終結する。このフレーズは天上を志向する表現と解釈される。

以上のような結果は、本研究で用いた分析法の有効性を示唆するものと考えられる。